日本経済思想史研究

第22号

| a. I | 2022.3 [令和4年3月] | | |
|------|---|------|-----|
| 論説 | 『農業本論』にみる経済学者としての新渡戸稲造 | 石森良孝 | 1 |
| | 河上肇の唯物史観理解の最終局面—社会的意識の考察を中心 として— | 上谷繁之 | 21 |
| | 社会教育者としての安部磯雄―明治期社会主義思想における 都市公共論― | 小嶋 翔 | 40 |
| | 太宰春台における「聖人の道」の相対化について 一「習熟」の方法論への否定をめぐって— | 楊世帆 | 58 |
| | 武藤秀太郎著『大正デモクラットの精神史―東アジアに おける「知識人」の誕生―』 | 見城悌治 | 74 |
| | 見城悌治編著『社会を支える「民」の育成と渋沢栄一』 | 坂本慎一 | 77 |
| e e | 野原慎司著『戦後経済学史の群像―日本資本主義はいかに 捉えられたか―』 | 中村宗悦 | 81 |
| | 小峯敦編『戦争と平和の経済思想』 | 布施豪嗣 | 84 |
| | | | |
| | 活動記録(大会記録・例会記録) | | |
| | お知らせ | | |
| | 編集後記 | | |
| | 日本経済思想史学会会則 | | 103 |
| | 英文要約 | •••• | 108 |